

ハチクマ

(学名：Pernis ptilorhynchus)

(写真・文 太田祥作)

【タカ目タカ科】



▲ 成鳥雄、9月撮影／頭部はハチに対する防御として、鱗状に硬くなった羽毛に覆われる



▲ 成鳥雄、7月撮影／幅広く長い翼と、長く突き出して見える頭部が特徴。色彩や模様は個体によって異なる

夏の只見町では時折、ハチクマという猛禽類が観察できます。ハチクマという種名は「ハチを食べるクマタカに似たタカ」の意で、その名の通りハチを餌としており、スズメバチ類、とりわけクロスズメバチ類を好みます。ハチを食べる猛禽類は、日本ではハチクマ1種だけ、世界的にも7種が知られるのみで、特殊な食性だと言えるでしょう。なお、ハチの他にカエルやヘビも食べます。

ハチクマはクロスズメバチ類の巣を見つける、地中にある巣を脚で掘り出しますが、その間なぜかハチの攻撃性が低下するため、殆ど刺されることなく巣を壊して幼虫と蛹だけを食べてしまいます。雛を育てている時期には、巣の一部ごと持ち帰って雛の餌とします。壊された巣では女王や働きバチが生存しているため、その後新たな巣が再建されるようです。

ハチクマは渡り鳥で、繁殖のため東南アジアから国内に飛来し、只見町では5月中旬から9月の初旬まで、主に山地を飛翔する個体がみられます。町内でも人知れず繁殖しているものと思われます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展アーカイブ「絶滅危惧種ヒメサユリのすべて」

会 期：2021年6月5日(土)～2021年7月26日(月)

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー